

令和6年度学校経営全日制反省（令和7年3月13日：校長）

重点	取組	評価の観点	評価	(案)
社会を支える 人材育成の実践	○ ユネスコスクールの理念を基盤とする持続可能な社会づくりへの貢献 ○ グローカルな視点による地域資源の活用 ○ キャリア教育及び主権者教育の充実による市民性の育成	①SDGsの目標に位置付けた教育活動が実践できた。 ②地域資源の活用や地域との連携などの取組が実践できた。 ③キャリア教育を組織的に実践できた。	①ユネスコスクールの取組として実践できているが、学校として位置付けることはできなかった。【△】 ②ボランティア活動やふるさと学など実践できた。また、学校運営協議会の設置により地域との連携体制を強化することができた。【○】 ③組織的に実践できているが、関係機関との連携など、学校運営協議会の活用による取組の充実が必要である。【△】	社会を支える 人材育成の実践
探究的な学びを 基盤とする学びを 向上の実践	○ 教科横断的探究による様々な資質能力の育成 ○ デジタル機器やソフトウェア等を最大限活用（DXハイスクール(申請中)） ○ 主体的・対話的な深い学びに向けた授業の研究	①探究活動において育成する資質能力を明確にしていた。 ②生徒が学力が向上したと実感した。 ③教員は適切な態度で授業を行っていた。	①年次と関係分掌が連携し、育成する資質能力を計画に入れる必要がある。【△】 ②学校関係者評価において、概ね前年度と同様である。「学力が向上したとを感じる」が、教員、生徒及び保護者すべてで2.9となっている。【△】 ③生徒の評価において、0.1ポイント減少していることから、教員の態度に課題があると考えている。【△】	探究的な 実質的な 学習能力を
前向き思考を育成 する実践	○ 健康調査による生徒の心身の状態を踏まえた支援の実施 ○ 各活動における目標の明確化による生徒の振り返りの実施 ○ 生徒が経験したり、体験したり、地域の人と関わったりするなどの場の設定 ○ 新たな教育相談の研究	①健康調査による生徒の心理面が改善した。 ②行事や部活動等において目標を明確にし、生徒が振り返る機会を設定した。 ③様々な活動において、生徒が経験や体験、地域との関わりなどができる場を設定した。 ④専門家と連携し、教育相談の研究をした。	①健康調査を年5回実施し、その結果を教育相談に生かしたことから、生徒の心理面の改善を図ることができた。【○】 ②ポートフォリオを通じて振り返る機会を設定している。今後は、生徒が振り返りを生かすための取組が必要である。【△】 ③石北本線のPRやラグビー壮行会など新たな場を設定することができた。【○】 ④道教委が先に研究を進めることになり、北海道医療大学と連携することができなかった。【×】	前向き思考を育成 する実践
社会に開かれた 教育課程の実践	○ 保護者や地域の期待等を踏まえた教育の推進（学校運営協議会・学校評価委員会等） ○ ホームページや生徒の活用等による学校情報のタイムリーで積極的な発信 ○ 組織的に中学校訪問や学校のPR活動等の実施	①学校運営協議会を年3回以上実施した。 ②SNSのフォロワー数やホームページの閲覧数が昨年度より増加した。 ③生徒募集委員会を中心に本来学区で通学可能圏内すべての中学校を訪問した。	①6/20, 10/15, 2/26の3回実施し、学校課題の解決等について協議することができた。【○】 ②SNSについてはフォロワー数は増加している。なお、次年度はホームページの閲覧カウンターを設定する。【○】 ③一部訪問できなかった学校がある。次年度に向けて、遠軽町と連携し、連携組織を設立する予定である。【△】	社会に開かれた 教育課程の実践
【各分掌へ】		○進路指導部		
○総務部		・令和6年度の大学進学指導等の総括		
・分掌業務等の見直しの推進		・学校運営協議会を活用し「進路の日」やキャリア教育等の連携体制の構築		
○教務部		○生徒指導部		
・定期考査廃止の検証		・生徒の自己肯定感を高める取組の充実		
・授業の工夫改善に向けた研修等の実施		・情報モラル教育の充実		
【全職員へ】		○情報部		
○サービス規律の徹底（ハラスメント、不適切な指導、不適切な言動等の防止）		・情報機器の管理の徹底		
○健康管理（時間外勤務縮減、休暇が取りやすい職場環境）		○事務部		
		・部活動振興会計の捻出		
		○各教科		
		・探究的な活動及びデジタル機器の活用の推進		
		・生徒のアウトプットの機会設定		
		○コミュニケーションの充実（報告・連絡・相談、話しやすい環境等）		
		○研修の充実（授業改善、特別支援教育、ICT活用等）		